

体験教育

新たな挑戦

コロナ禍での明星教育

理事長 吉田 元一



「予測困難な時代」という言葉を使いました。

確かに、世の中の変化は激しく、世界の政治経済は目まぐるしく動き、技術革新とそれに伴う産業界の変動や、テクノロジーの日常生活への浸透は、まさに予測困難時代を実感させます。しかし、このコロナ禍は多くの人にとって全く予測の範囲にも入らない想定外のものだったと言えます。

昨年の春は明星高校の大学進学実績が飛躍的に伸びました。現役生だけで、東京大学・一橋大学を始めとする国公立大に十九名、早稲田・慶応等難関私大に二十四名、GMARCHに合わせて七十名が合格するなど素晴らしい成果をあげました。これは生徒の皆さんの頑張りや勿論ですが、福本校長のリーダーシップのもと、教育改革プログラムを全教員が一丸となって実行したことによる成果と言えます。特に進路指導を担当された先生方や受験生一人一人に寄り添い熱心な指導をされた先生方の努力は特筆したいと思えます。

星小学校の評価を上げていることの証左だとすれば、とても嬉しいことです。本来であれば、これらのグッドニュースの喜びを関係者で分かち合う時に、コロナに巻き込まれませんでした。明星教育は、どんな時代が来ようと、その中で活躍できる力を養成することを目的としています。コロナに負けてはいられません。昨年三月には府中校危機対策本部を設置し、生徒・児童・園児と教職員の安全を確保しつつ困難な状況の中で生徒たちの学びを継続させることに教職員は全力を尽くしてきました。四月はやむなく休校の措置をとり、入学式・始業式も中止したものの、中学校・高等学校では、ICTツールを駆使してオンラインで授業等を実施、小学校でもZoomを使用したクラス会や試行的なオンライン授業を実施しました。五月七日からは学校活動を再開しましたが、子供たちは引き続き在宅で授業を受けられる形となりました。そのような環境の中で先生方の必死の努力、そして保護者の皆様の協力によって安全確保の観点から分散发酵を実施し、中学校・高等学校では対面授業と在宅での遠隔授業を組み合わせ、在宅時でもICTツールを活用して課題に取り組めるよう

編集／体験教育編集委員会
発行／学校法人 明星学苑
東京都府中市栄町一丁目
〇四二二六八五二二
制作／信濃印刷㈱

にしました。この間、遠隔授業や分散登校で子供たちや保護者の皆様が困っていることを解消したい、少しでも質の高い教育を提供したい、という先生方の思いから、中学校・高等学校の生徒や小学校の保護者の皆様にはアンケートにご協力いただき、その結果を反映させながら、改善を図ることも行いました。幸い明星学苑では、ICT教育の重要性を認識し、その推進の為にICT環境の整備や、中学校・高等学校の生徒には一人一台の端末の所持を進めてきましたので、即座に遠隔授業を開始できました。小学校でも学校が所持している端末を貸し出す形でオンライン授業を開始しました。生徒たちが将来必要になるICT教育の推進の為に、情報基盤を整備し、又、明星大学情報学部や外部のICT教育系企業と提携して力を注いで来たことが、コロナ禍という困難な状況でも、生徒たちの大切な学びを止めることなく、明星教育の質の確保ができたことにつながったと思います。そして何より、コロナ禍の中で全教員が「手塩にかける教育」の精神を実践したことを誇りたいと思います。今、明星学苑で学んでいる生徒たちが活躍する時代は多様性に富むグローバル社会であり、AI(人工知能)、DX(デジタルトランスフォーメーション)が社会を変えていくSociety 5.0に移行します。新型コロナパンデミックは結果的にその動きを加速させました。明星学苑はこういった時代を見据え、これまで以上に時代の要請に応えるような時代が来てもその中で自立し、活躍できる人材を育成する教育をする学校を目指していきます。

目次

新たな挑戦 コロナ禍での明星教育 1

子供時代は将来の夢を探す旅 2

「卒業園」二進級おめでとう 2

小学校 スカッとさわやかに！ 6

当たり前を問い直し新たな一歩を 6

一年生 校外学習・書き初め会 7

二年生 理科の学習校内学習スタンプラリー 7

三年生 心を一つにがんばる三年生 7

四年生 明星小学校創立七十周年 7

五年生 スポーツウイーククラス旗 8

六年生 俳句を詠もう！ 8

松組 「最後に最高の松組」 9

竹組 「コロナの中でも」 9

梅組 「絶えない絆、笑顔で優しい六梅」 10

「卒業生へのメッセージ」 10

美術部の2人が快挙！ 11

受賞の言葉 11

「コロナに負けない明星での学び」 12

「一週間で学べたこと」 12

「ディスカバウォーク」 13

子供時代は 将来の夢を探す旅

園長 渡邊 智恵子



お子様のご卒園、ご進級おめでとうございます。
保護者の皆様におかれましても、

明星幼稚園の教育活動にご理解ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さてこの一年はこれまで私たちが経験したことのない災禍の中、手探りで開始となりました。六月に保育が再開した際は感染防止対策と子供たちの育ちをどう担保していったら良いのかを教職員全員が日々考え、気が重くなることもありましたが、

しかし無垢な園児たちの笑顔と、ご家族からいただく励ましの言葉、私たちに向けてくださった信頼に助けられ、こうして年度末を迎えることができました。

例年とは違う形式での園生活の中ではありましたが、園児たちはそれぞれの場面でそれぞれに成長した姿を見せてくれました。

クラスや学年といった集団として

の大きな成長を見ることができました。

そして特に大切にしたい、個性あふれる未来ある一人ひとりの、小さな成長を見逃さずに援助していくことを、教員たちはこの状況下においても絶えず重視して保育にあたってきました。

子供たちの生活はすべて将来の夢を探す旅のように感じています。未来ある明星幼稚園の子供たちが、そのかけがえのない幼児期にどれだけ夢を語れたか、保育者がその夢を受け止められたか次第で、子供たちの自己肯定感は育っていくといっても過言でないと考えています。

一人ひとりに大きくなったら何になりたいかを尋ねると様々な答えが返ってきます。具体的な職業を言う子もあれば、テレビのヒーロー、お父さん、お母さんと言う子もいます。まだ決まっていないという子もたくさんいます。

しばらくして再び尋ねると、全く違う答えになることも当たり前のようにあります。

自分に自信が持てず自己肯定感が育たないままでは、将来の夢を描くことはできなくなります。

将来のどこかのタイミングで実際に進路を選択する場面において、様々な選択肢が存在し、夢を追いかけることが出来るようになってほしい。そのためには子供たちの今の夢

を肯定していくことも、親が自分の職業やなりたかった職業、あるいは何をもって職業や生き方を選択してきたかというような大切にしていること(価値観)を伝えることもできるでしょう。

幼い子供たちが自分の未来を自由に思い描き、語ることが出来る環境と、その自由な未来を一緒に想像できる大人であり続けたいと考えています。

ご卒園 ご進級おめでとうございます

園長補佐 河浦 晃子

園庭の梅の花がきれいに咲き、木々のつぼみがふくらみはじめ寒さの中にも春の気配を感じさせる頃となりました。お子様のご卒園、ご進級おめでとうございます。



今年度は特別な状況下でスタートした日々でした。園明け、園が元気な声でいっぱいになった時

には胸がいっぱいで目頭が熱くなりました。日常とはどれほど大切なものなのかと改めて思い知らされました。日頃の保護者の皆様のご理解・ご協力に感謝申し上げます。

一年の月日は早いものでびかびかの印象を受けていたのに今ではすっかり頭になじみ、その色とともに一人ひとりのお顔が浮かぶようになってきました。たくさんの方が出来るようになりました。たくさんの方が出来るようになりました。たくさんの方が出来るようになりました。たくさんの方が出来るようになりました。



野菜を切ってみると…こんな風になっているんだね!



先生が読んでくれる絵本に興味津々です

三輪車とキックボードはいつも大人気です!



がたんごん!
素敵な森を走る、
きく組鉄道です!

紙芝居に夢中です。この後どうなっちゃうんだろう…!



ヘルメットのかぶり方も
しっかり練習しました



すくすくと大きくなっています。
お誕生日おめでとう!



ファミリープレゼントで
プラバンを作ったよ!





体育館のプールは広くてたくさん泳げたよ!

お水の中でワニさん歩き。上手でしょ。



みて!カブトムシさん触れたよ!



むむっ!? このおさかなつり、少し難しいぞ。



立派なきゅうりが採れました!



とうもろこしがあつという間に私たちよりおおきくなっちゃった!



みんなでミニトマトの収穫をしたよ。赤くてまんまる、おいしそう!



育てたとうもろこしの皮を丁寧にむきました。



ジュー!ナスとピーマンの焼けるいい匂いがするよ!



こぼさないように、そーっと。初めてのクッキングはドキドキでした。



梅ジュースを作りました。おいしくなあれ!



初めてのおゆうぎ。かいじゅうさんになりきって可愛く「ギャオー！」



パラバルーンの練習、たくさん頑張りました！

よーいどん！みんなの声援を力に変えて一生懸命走りました！



じゃーん！こんなに大きなおいもが掘れたよ！



よいしょ、よいしょ！大きなおいもを見つけるぞ！



お外で食べる焼いものお味はベリーグッド！

お外で食べるお弁当も焼いものもおいしいよ



発表会 ふじ組「プレーメンのおんがくたい」



発表会 きく組「あかずきん」

発表会 もも組「おうさまのたからもの」



幼稚園でとれるみかんはとってもおいしい！たくさん食べたいな！



学苑内散策の最後はシャボン玉で遊びました！



シャンシャン、タンタン♪クリスマスの演奏会、楽しかったね！



スカットとさわやかに！ 当たり前を問い直し新たな一歩を

明星小学校校長 細水保宏



スカットとさわやかに！

「自分らしさ」を追究する旅へ出発！

明星小学校は、この二〇二〇年(令和二年)で創立七十周年を迎えました。

「時間は刻々と過ぎ去って、決してもとに戻ることはありません。しかし、川の流れのように、ただ流れきってしまうものでもありません。

人間は自分の生きた時間を積み重ね、少しずつ進歩して次の時代へのバトンを渡していく動物です。それを『歴史』と呼ぶのです。「これは、ある小学校の資料室の片隅にあった古い黒板に書かれていた言葉です。あまりに素敵な言葉だったので手帳にメモしておいたものです。

明星小学校の歴史は、歴代の理事長、校長、教職員、そして、子どもたちと保護者の皆様とでバトンを受け継ぎながら創りあげてきたものです。そのバトンを受け継ぎ、さらに新たなよき歴史を創っていく、それが今を生きる私たちの役目だと考えています。

学習指導要領が改訂され、「主体的・対話的で、深い学び」を実現し

ながら、子どもたち一人ひとりの「資質・能力の育成」を図っていくことが、これから先十年の教育の指針として示されました。

現在、明星小学校は、三年後、六年後、九年後を見据えて今何をすべきか考え、「賢さ」と『豊かさ』を兼ね備えた、輝きをもった子どもの育成」をテーマに走り出しています。

心の働きを強くする「凝念」、夢を叶える力を育む「深い学び」、感動の数で心を育てる「体験」、この三つを柱として、新たなプログラムを創り、実践を積み重ねています。

「英語の強化」「理数の強化」「先進的プログラミング教育」とともに、今後、これからの社会により必要となるグローバル力を育む「探究学習」、「STEM教育」にも新たに目を向け、取り組んでいこうと思っています。

そして、何より教師の授業力を切磋琢磨して鍛えています。保護者は私学を選択できるが担任は選択できないことを考えると、保護者の次に子どもたちに影響がある担任を含めた教師の質が学校教育では何より大

切だと考えているからです。

どんな子も心開いて、学び、成長していく、さわやかな風が流れる学校を教職員一同、チームを組んで子どもたちと一緒に創っていく、それが私の学校づくりの強い想いです。今後とも皆様の温かい眼差しとご理解、ご協力の程を切にお願い申し上げます。

新しい歴史づくりの旅へ。もちろん、合言葉は、「スカットとさわやかに！」。

(本年度発行七十周年記念誌より)

当たり前を問い直し新たな一歩を！

二〇二〇年はコロナ対策で追われる年となりました。登校禁止期間を終えてやっと六月一日に行うことができた入学式、各学年の宿泊行事、運動会など中止せざるを得ない状態が続いた中、明星祭、スポーツウィーク、創立七十周年を祝う会などが形を変えて行うことができたことは、皆様の協力のお陰だと感謝しております。

一方で、いつも当たり前のように行っていたことでも問い直してみたい時、そこにある大切なものに気付かされたことも数多くありました。マスクをしての授業では、日ごろ子どもたちの眼と唇を観ながら授業していることを再確認し、子どもの

様子がとらえにくい分、身振りや手振り、ノートで自分の考えを表現する大切さも改めて感じさせられました。

また、児童会や六年生主体で行われたスポーツウィークや七十周年を祝う会などでは、自立する六年生の頼もしい姿と大きな力を感じました。



手づくりの70周年祝う会

六年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

「スカットとさわやかに！」。

皆さんと知り合ったときから先生の大好きなこの言葉をいつも唱えてきました。何事にも全力で取り組む人、自分らしさを持った人、人の笑顔を見るのが好きな人、という「さわやかで魅力ある人」になりたい、また皆さんにもなってもらいたいと思っているからです。小学校で体験し、培ってきた心と力で大きく羽ばたいてください。応援しています。

もちろん、合い言葉は、「スカットとさわやかに！」。

一年生



校外学習

十一月十一日

今年度、初めての学年行事となった校外学習。百十一人、全員で武蔵国分寺公園にて、グループごとに、ネイチャービンゴを行いました。

秋が深まり、紅葉したはっぱやどんぐりを見つけたり、すすきが生い茂っている中で虫を見つけたり、友だちと楽しく活動することができました。

今回の校外学習では、普段遊んでいない友だちとの関わりや、同じ興味を持った友だちとのふれあいを持つことができ、実りのある一日となりました。



書き初め会

十一月十二日

今年のお題は「富士山」。三年生の音楽の教科書にも出てくる曲ですが、知っている児童もおり、各クラスで歌ってから、書き初めの練習を始めました。



本番では、一枚書き終わると、「ふう〜。」と、ため息をつき、鉛筆をを持った手をさすっている子もいました。一人ひとりの作品からは、これまでの練習の成果を出そうという気持ちと、一生懸命取り組んだ姿勢が感じられ、とても立派なものになりました。

十一月に、書き初めの練習を始めたときには、なかなかまっすぐに書けず、間違えて消しゴムを使っていました。一文字一文字集中してかけるようになりました。丁寧に字を書けるようになっただけではなく、一つのこと集中して向かう心も養われたように感じます。これも、毎日行ってきた、凝念の効果ではないでしょうか。(文責 一年担任)

二年生

チャレンジする
ことを大切に



今年度は、例年とは違う学校生活様式が求められる年でした。そんな中でも、「チャレンジすることを大切に」のキャッチフレーズ通り、二年生は何事にもチャレンジし、確実に力をつけていきました。

理科の学習

明星小学校の低学年くぬぎでは、低学年理科も学習しています。「じしゃくであそぼう!」をテーマに、身の回りのものが磁石につくか、つかないかを予想して、実験しました。一番盛り上がったのは、「空き缶」です。「磁石につく!」と予想したけれど、つかない空き缶もありました。実はアルミ缶とスチール缶があることをここで知りました。実験の後、磁石の迷路作りで楽しみました。



校内学習スタンブレイ

府中の森公園での校外学習に向けて、今回は、クラスを越えて学年の交流をさらに深めていくためのグループを編成し、事前に話し合い活動の時間を取り、準備を進めてきました。しかし、残念ながら府中の森公園には行くことができませんでした。そこで校内学習に切り替え、府中の森公園で行う予定だったスタンブレイを学苑内で行いました。公園に負けない豊かな学苑の自然の中、予定していた内容をほぼ楽しむことができました。学苑の自然を再発見し、クラスを超えての交流の時間となりました。

(文責 二年担任)



二年 生

心を一つにがんばる三年生

今年度は例年と違い、学級開きが遅れて、なかなか一体感が得られな
いまま前期が終了しました。後期に
なつて、ようやく学年や学校の行事
も感染予防のための工夫を凝らしな
がら行うことができるようになりま
した。

十月にはスポーツウィークが行わ
れ、三年生は「ダッシュ玉入れ」と
「リレー」を行いました。精一杯が
んばる友達を応援する姿がようやく
見られ、心のつながりが芽生えてき
たと実感しました。



十一月には、府中市郷土の森博物
館に校外学習に出かけました。府中
駅に集合し、そこからみんなで歩い
て向かいました。学校生活だけでは
なかなか身につかない公衆道徳やマ
ナーなどを学ぶよい機会となりました。

現地では、グループで協力し、
先生から出されるミッションに挑戦
しました。疲れも見せず、活動時間
を延ばさなければならぬほど熱中
していました。そのあとはみんな揃
って、芝生の広場でお弁当です。寒
さに負けず、学校とはまた違った、
いきいきとした開放的な笑顔が見ら
れました。思い出や感動を共有する
ことができ、子ども達にとっても私
達教員にとっても収穫の多い一日と
なりました。



(文責 三年担任)

四年 生

〈当たり前の 大切さ〉

今年度は、特に日常生活の大切さ
を感じた一年間でした。校外学習な
ど、特別な活動は少なくなりました
が、その代わりに通常の学校生活の
中で楽しみや喜びを見つけていきま
した。

明星小学校創立七十周年

明星小学校が七十周年ということ
で、四年生では、このような作品を
作りました。



「70」の文字を形作っているのは、
一人ひとりがかいた自分の笑顔です。

スポーツウィーククラス旗

スポーツウィークでは各クラスで
クラス旗を作りました。デザイン決
めから作成まで自分たちの力で、何
かが形作られていく姿にわくわくし
ている様子でした。



今までの何気ない日常に目を向
け、できることを全力で楽しむ姿が
見られました。

(文責 四年担任)

五年生

俳句を詠もう！

休校中の四月から国語の授業の中で、俳句を考えて詠む学習に取り組んできました。十七音という「世界で最も短い詩」の中に、自分が今まで感じてきた季節の様子を表現していきます。考えてきた俳句を発表し合う会も行いました。友達の俳句に触れ、よさを共有することで、使う言葉や表現を工夫していきました。

また、学苑内で季節を感じる場所を探し、グループごとにお気に入りの場所を撮影しました。撮影した写真を背景に俳句を詠み、作品が出来上がりました。季節を感じ、表現する素晴らしさを味わっていました。



まさに明星ダンサーズ！

「ダンスの力でみんなを元気に」を合言葉に、コロナ禍より練習してきた取り組みが、更に盛り上がりつつあります。第一弾は、スポーツウィークでの「運動神経がよくなるダンス」。運動することは、こんなにも楽しいのだと実感させられました。

第二弾は、明星小学校七〇周年を祝う会での嵐の「GUTS」の曲にのせたダンスです。学校で一緒に過ごすことの喜びを、全校児童に伝えました。

そして、いよいよ集大成ともいべき第三弾の企画が始まりました。ダイドードリンコさんが提供するキャリア教育プログラムへの参加です。地域の伝統的な府中小唄とストリートダンスの融合に挑戦する子ども達は、まさに明星ダンサーズ。一人ひとりが思いをぶつけ合い、一つのダンスを作る姿に、私達も元気づけられました。

(文責 五年担任)



六年生 卒業する私たち 学級紹介

松組

「最後で最高の松組」

六年松組は、それぞれの個性を持っている男女で組み合わせつついて、明るく元気で、にぎやかな楽しいクラスです。

休み時間などは、男女分かれて過ごしますが、授業となると、男女関係なく、与えられた役割を終えるまで努力し、自分達がやることを最高にするために、最後までやり通す力を持っています。

しかし、やると決まったらすぐに



やり始める松組ですが、作業がおそく、ぎりぎりになってしまいます。しかしこれを挽回できるぐらいそれぞれで協力し合えて、約束ことや約束の期限までに仕上げられる、結束力の高い最高のクラスでもあります。激しいクラスですが、小学校生活最後のクラスとして相応しいクラスです。

『一番の思い出』

松組、運動会四連覇!!。このクラスでは二連覇を果たしました。

『伝説のソーラン節』

六年生では「伝説」を目指して練習をした南中ソーラン節をひろうしました。ダンスリーダーを中心に頑張りました。みんな本番では全力を出しきったと思います。

『無敗神話のハリケーン』

六年生になっての男子は初めて、女子は二度目のハリケーン。コツを覚え常に一位でした。

『二位まであと少しクラス対抗リレ』

練習ではいつも、竹組と同率一位でした。本番も練習どおりと思いましたが、残念ながら二位となってしまいました。

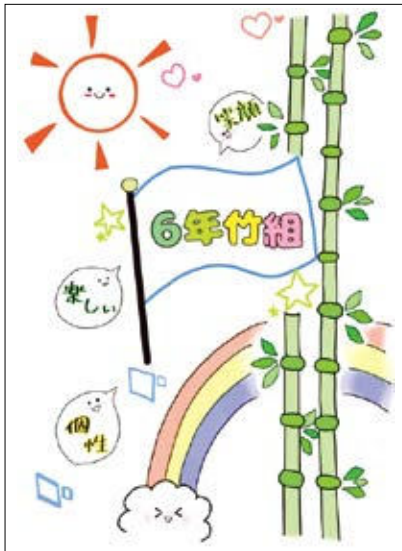
みんなで過ごした日々の思い出はもっと、もっとたたくさんあります。二年間で、みんなとの仲は底しれず良くなったと思います。

竹組 「コロナの中でも」

私たちがまだ一年生だったころ、六年生にとってもお世話になりました。そして、五年生のころから新しく入ってくる一年生のことを楽しみにしていました。しかし、新型コロナウイルスが世界中に広まり、それどころではなくなっていました。

そんな中、「Zoom」の授業やグループクラスルームで宿題が出されたりと、学校が始まってきました。そして、午後からの登校となり、ついには学校に行けるようになりました。そんな状況でも私たち六年は、スポーツウィークなどの行事を考えました。

六年竹組は、明るくて個性あふれるクラスです。新型コロナウイルスのこともあり、さらに忙しくなりま



した。さらに追い打ちをかけるように修学旅行も中止になり、冬休み明けは又午後からの登校となってしまいました。このままでは「感染拡大」→「感染収束」→「感染拡大」…のくり返しです。そうならないために、自分さえよければいい、ではなく、一人一人が常に意識する必要があるます。

でも、最後の小学校生活ですし、修学旅行がなくなってしまったので、たくさん楽しいことをしたいです。すよね。

そして、卒業するときには、六年間で一番楽しかったのは六年生だった、と思えるクラスにしたいです。た、いつも優しく見守って下さった先生方、そして、ずっと支えて下さった家族の方、この六年間本当に有り難うございました。

もうすぐ中学生になります。部活と勉強を両立できるように、これからもがんばりましょう。

梅組 「絶えない絆、笑顔で優しい六梅」

六年前、初めて制服を着て、学校にきた時、六年生が優しく接してくれました。かっこよくて優しいお兄さん、お姉さんになれるか心配でした。気付くとぼくたちは、もう六年生の後期に入っていました。ふり返ってみると、いろいろなことに挑戦したり、周りの人に優しく接したりできました。

六梅は、みんな優しく、男女の仲がいいクラスです。七十周年のアーチやスポーツウィークの旗づくりでは、みんなで力を合わせて仕上げることができました。休み時間にはクラスみんなで、イベント係が考え



たゲームや運動をたくさんしました。例えば、イベント係の手作りのもぐらたたきや輪投げをしたり、外でドッジボールやドロケイをしたりしました。誰かが忘れ物をしていても責めずにどうやったか忘れ物をしてないかみんなで考えてあげます。今は、あまり交流できませんが、一年生とも遊んで、交流を深めています。

コロナ禍で、六年生の最後の運動会は、運動会ではなく、スポーツウィークでした。六梅は三チームに分かれて、練習しました。ダンスリーダーは細かい動きまで体に覚えさせて、チームのみんなに教えました。本番当日、みんな、きん張して仕方がありませんでした。それは、六年生の親が見に来てくれたからです。

みんな、はだしになって、気合を入れて力いっぱいおどりました。おどりで終わった時には、みんな息がはずんでいました。やっぱり力を合わせれば六年梅組は何でもできるということがよく分かりました。運動会の結果は二位でしたが、後悔はありませんでした。一生けん命おどったり、走ったりして力を抜いた所がないからです。

六年梅組のみんなありがとう。中学生になると別々のクラスになってしまうけど、小学校での思い出を忘れずに頑張ろうと思います。

卒業生へのメッセージ

明星中学校・高等学校

校長 福本 眞也



高等学校及び中学校の卒業生諸君、卒業おめでとう。保護者の皆さま、ご家族の皆さま、大切に育てられたお子様のご卒業、誠にありがとうございます。心よりお喜び申し上げます。

明星高校の卒業生は、明星小学校から十二年間、中学校から六年間、高校から三年間と、学苑生活の期間は異なりますが、明星高校での三年間の学びは、これからの人生の大きな礎いしづえになると信じています。明星は二十一世紀の「活躍力」を身につける学びを進めてきました。皆さん方はグローバル社会、高度情報化社会で活躍していくのに大事なことを学んできました。また、「凝念」と「心力歌」を体得しています。「見える学力」と「見えない学力」、そして、教育で一番重要な「心の教育」も賢沢に学んで来たことに誇りと自信を持ってこの学び舎を巣立って下さい。

そして、卒業生にとつて最も大切な三年生という一年間は新型コロナウイルス感染症の渦中でした。非日常の生活、これまでは想像もできなかった学校生活と教育活動。この一年間で皆さん方は、自分のいのちを守る、家族のきずな、自分で考え自分で行動する、自分で学ぶ姿勢等々、大切なことを沢山学びました。本当に人生で大切なことばかりです。大変な一年でしたが、学びの多い一年でもあったと言えます。今後の人生でこの経験を活かして、二十一世紀社会で存分に活躍してください。

最後に、校門を入った所にある像の二宮尊徳の言葉を卒業生の皆さんに饒はなむけとして贈ります。

「我が道は至誠と実行のみ。故に才智、弁舌を尊ばず。至誠と実行を尊ぶなり。凡そ世の中は智あるも学あるも、至誠と実行とにあらざれば、事はならぬものと知るべし。」

心の教育と体験教育を明星教育の根幹に据えられた創立者児玉九十先生が府中校キャンパスに二宮尊徳の像を置かれた意味が分かるのではないのでしょうか。明星の卒業生であることを誇りに、これからの人生を益々有意義に生きて下さい。

卒業生諸君、卒業おめでとう！



美術部の2人が快挙!

第48回「東京私立中学高等学校生徒写真・美術展 中学の部」で3年1組の小澤広隆君が最高の会長賞を、3年4組の小川結衣さんが朝日新聞社賞を、それぞれ受賞しました。二人の受賞作品は、最後のページに掲載しています。

「受賞の言葉」小澤 広隆

今回、会長賞をいただいた「空即是色」は奈良興福寺の無著菩薩像(国宝・運慶作)をモデルに描きました。無著菩薩像は、鎌倉時代の肖像彫刻中の最高傑作と言われていて、玉眼を嵌めこんだ、美しい仏像です。

無著という名前は大乘仏教の空思想を会得したことから付けられているそうです。そこで私も「空」にちなんだ般若心経の中の「空即是色」という題にしました。この作品は、木炭画の技法を駆使したもので、背景に「箔」を使い、室町時代の屏風図風にしました。また、「銀泥」という銀粉を固めたものを溶いて、琳派風の渦巻きを描きました。

創作していく中で一番苦労したのは、今回、初の試みだった「箔」を使った表現と、仏像との調和とバランスです。木炭を粉状にして「箔」にのせてみるなど、何回も試行錯誤を繰り返しました。

賞は毎年いただいていたのですが、今回、自分の目標であった会長賞をいただけたのも、指導して下さった美術部顧問の加藤先生の御蔭です。

本当にありがとうございます。

「受賞の言葉」小川 結衣

今回、展示する絵は、一年の集大成であるため、私の好きな「赤ちゃん」をテーマに描きました。

絵を描くときに意識したことは、やわらかさ、あたたかさ、赤ちゃんの素晴らしさです。赤ちゃんは、みんなの気持ちを明るく、朗らかにしてくれる素晴らしいパワーを持っています。

あたたかい赤ちゃんを絵の中で育ててあげるために、柔らかい赤色を頬に散りばめたり、その対比でまわりの青みを強くしたりしました。また、赤ちゃんに存在感を与えなかったので、重みを出すために盛り上がりも意識しました。

何より赤ちゃんは可愛いので、たくさんの「かわいい」を詰めこんだつもりです。「赤ちゃん」という題名は、赤ちゃんそのものの素朴さや主役を表現するためストレートにしました。

今後は、考えを表現する力を身に付けていきたいです。

今回、受賞することができて、うれしいです。ありがとうございます。

★★★コロナに負けない明星での学び★★★

コロナ禍の状況下、生徒たちが楽しみにしていた学校行事が中止や延期を余儀なくされたり、部活動も時間を限られたりと、多くの制約を受けながらの学校生活もまもなく一年になろうとしています。そうした中であっても、明星の生徒たちは「〇〇ができなくなったからこそ、このチャンスに恵まれた」とポジティブに考え、明るく前向きに進んでいこうとしています。コロナが終息した時にやりたいことを想像し、耐えるチカラをレジリエンス(復元力)に変え、大きく飛躍するための充電期間としての日々を送っているのです。

冬来たりなば、春遠からじ。(シェリー)

「コロナの世界の「ペスト」

高校二年十一組 廣川 祝子

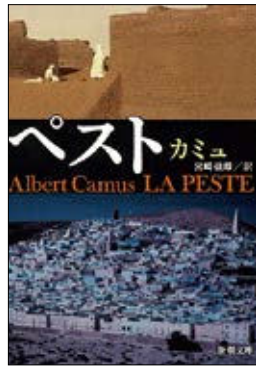
春を望む

世界は混沌 静まらず
風光山川 常のまま
街に来たのは さびしい春で
山に来たのは 豊かな深み
咲いた桜にも 気づかぬ涙
昨日の人が 今日には去る
居座る病は 三月を越えた
求めた真実 捜すは安堵
為す術なしの 叫びは苦く
特別がないと 今更悟る

コロナが流行り始めた春に作った私の感想です。杜甫の春望という詩を元にしました。同時期に読者を増やしていたのが、アルペール・カミユの『ペスト』でした。設定状況が現在と酷似しているので、疫病下での人生をどのように生きるかについて、ヒントがあるかもしれないと考えたのでしよう。異なるのは、作中では外界があり、援助があり、閉ざされた街から出られれば助かるかもしれないという希望が見え隠れします。コロナも閉塞環境であるには違いがありませんが、その舞台は大都市ではなく全世界なので、外界というものが深い点では、コロナの方が深刻かもしれません。希望も

なく、物資もあてにならない、だから、人々は動き、より一層終息に菌止めを効かなくしているのでしょう。それらはすべて生きるためであるゆえに、誰も責められません。それが「今」だと思います。

社会が疑心暗鬼になる中で、真価が認められる人もいれば、本性が暴かれる人もいます。本来ならば、助け合い、与え合わなければならぬ時に特権を享受し、利益を優先しようとする人が多くなることも、浮世の常のことなのでしょう。同じような人の姿が『ペスト』にも描かれていました。



私は、コロナ後の世界は、新しい秩序に基づくものとはならず、これまでの世界に戻そうとする力が強く働くようになると思います。この世界は利益を求めるものであるため、人々は既得権益を守ろうとするでしょう。そうした中で変化するのは、個人の繋がり、いわゆる「絆」でしょう。「人と人との繋がりや思いやりが何よりも大切だ」といささか

美化のしすぎではないかと思えるほど宣伝されているのは、それだけ「繋がり」が希薄なものとなっているからでしょう。親がしていないことは、子どもにとってそれは存在しないのと同じであり、それを教える方法さえ失われているのが現実だとも思えます。生活に根差して教えられていれば、それが「絆」だとかいう前に人々の中で一緒に生きようと動くものがあると思います。「絆」と言えば言うほど、「絆」は不確かなものとなつて、変質していくのだからと思います。

個人の「繋がり」が変質するということとは、これまで以上に個人の幸福が強調されるのではないかと思えます。個人の努力に勝るものはない、失敗した者は努力不足に過ぎない、この世はすべて自己責任であり、ここにこそ幸福はあるのだ、と。その結果、どんな人でも孤独を生き、孤独死の中で死ぬ世界になるのだからと思えます。他の人と助け合わず、自分一人の手だけですべての幸福をつかもうとするのですから、他人の幸福は自分の不幸というメンタリティを持つ人々が多くなる、ということとです。そういった人々と、そういった世界と共に生きていくことに慣れて、流していけば絶望は感じない。カミュの本領は、ここからだと思

ます。その世界に不条理を持ち出し、反抗することを訴えます。「子どもたちが責め苛まれるように造られた世界を愛するなど、死んでもできない」と言い切っています。子どもを育てるにしても、子どもが自分の幸せにならないのなら、いらぬ。自分が幸せになるのなら、子どもが不幸になつてもいい、という具合に進み、自分の幸福こそが目的となる世界、子孫がいけない種は消えます。自分が納得も承服もできなくても、その世界で生きなければならぬ不条理に反抗すること。自分一人が文句を言つても何もならない、それでも言い続けること。本音と建て前は使い分けても反抗することだとカミュは言い、ペストにさえ慣れや諦めを拒みます。



当たり前を当たり前にしながら、ともすれば飲み込まれ、流されそう

になる世界に、社会に、不条理に抗い、叫び、私たちは今日、反抗しなければなりません。その先の世界を今より少しでもよいものにするため、他人任せにすることなく、日々前進していくこと、それが人間にできる最大の反抗だと思います。

一週間で学べたこと
中学三年四組 福元 愛咲

新型コロナウイルスが流行し始め、私たち中学三年生は、セブ島に行けなくなつてしまいました。その代わりとして、オンライン学校交流会に参加しました。

交流会では、インドやパキスタンの同年代の人たちと交流しました。一日目は、相手が話す英語が聞き取れなかったり、質問するときも、日本のアシスタントの方を通して言ってもらったりと、直接話さずに終わつてしまいました。しかし二日目からは、一人一人が目標を立て、少しずつ英語で質問したり、答えたりできるようになりました。直接話すことができて達成感を得られ、だんだん楽しくなつていきました。そして最後の日には、積極的に英語で話せるようになりました。私たちにとつても、相手の人たちにとつても、楽しい交流会になったと思います。



Zoomで交流中

一週間という短い間でしたが、とても充実していたと思いますし、そこで得られた達成感、今だからこそ感じる事ができたものだったと思います。セブ島に行けなかった分、たくさんのことをこの一週間で学ぶことができました。今回のこの経験を高校生活で、そしてその先の将来にも生かしていきたいと思いました。



発表する意見の出し合い

次は、私みなさんに是非読んでほしいと思った本を紹介합니다。私

が紹介するのは、辻村深月(つじむらみずき)さんの『スロウハイツの神様』(上・下巻)です。

この本は、人気脚本家である赤羽環(あかばねたまき)と、彼女がオーナーを務める「スロウハイツ」というアパートに住む友人たちとの生活を描いた物語です。内容は、「チョダ・コキ」の小説のせいで人が死んだ」その事件から十年たった日から始まり。夢を語り、物語を作る。彼らは好きなことに没頭してました。しかし、空き室だった二〇一号室に新しい住人がやってきて、少しずつ六人の関係を変えていきます。

上下巻とあり、「長いな」と感じる人もいますが、最後まで読んでみてください！物語の結末、きつとみなさん感動します。



辻村さんの本は読んでみると、最後の数ページで「えっ」となるようなことが起きます。最後の最後で何が起ころうかあるんです！「スロウハイツの神様」も最後に何かが起ころうかあるんです。最後の数ページを

読んでとても驚きました。そしてまた最初から読み返したくなるような物語です。

また、辻村さんの本は「辻村ワールド」と呼ばれていて、作品がリンクしているんです！同じ登場人物が複数の作品で出てきたりしている、読む順番によってより楽しめます。その順番は、だいたいほんの帯に書いてあります！

「スロウハイツの神様」は最初の、スタートの物語なので、ぜひ「スロウハイツの神様」から順番に読んでみてください！

ディスカバーウォーク

歩いて感じられたこと

中学二年一組 野口 優花

十月二十一日の水曜日に中学二年生はSDGsの一環として、学校の周辺を歩くディスカバーウォークを行い、A・B・C・D・Eの五つのコースに分かれて歩きました。

- ・Aコースは大國魂神社・武蔵国府跡
- ・Bコースは武蔵国分寺跡・武蔵国分寺跡資料館・お鷹の道
- ・Cコースは多磨霊園・浅間山公園
- ・Dコースは府中市美術館・府中の森公園
- ・Eコースは武蔵国分寺尼寺跡・黒

鐘公園・国分寺市文化財資料展示

室 それぞれの場所にはチェックポイントがあり、そしてそのチェックポイントで写真を撮るというMISSIONがありました。それぞれMISSIONを達成するために、チェックポイントを一歩懸命に探しながら頑張っていました。普段歩いている時には意識しない、またバスなどの公共交通機関を使わなかったことで、自然の空気や風、草木の様子などを、SDGsというテーマがあることで意識をして歩く事ができ、肌で感じる事が出来たので良かったです。

今回私が歩いたのは、Dコースの府中市美術館・府中の森公園だったのですが、府中の森公園では風によって揺れる葉っぱなど緑が多く、とても自然を感じられ、また親子で遊んでいる小さな子供たちが多かった



府中の森公園 噴水



武蔵国分寺跡資料館



国分寺 お鷹の道

ので、ほんわかした気持ちになりました。また、府中市美術館では、様々なアート作品などを見る事が出来ました。中でも印象的だった作品は、一見、一色の絵の具だけでキャンバスに塗られているだけのように見える、ですが実際は違い、近くで見ると見ると筆の使い方による跡や、空気の入り方により粒の大きさ、数などが違っており感動しました。公

園と美術館、自然と芸術が豊かな府中市は、住みやすい町であると思えました。今回、歩いて感じられたことがたくさんありました。今後はなんとなく歩くのではなく、風や草木の雰囲気を意識して歩きたいです。

突然ですが、みなさんには家族よりも大切な家族はありますか？この本はそんな疑問を持ちながら読んでもらいたいと思います。あらすじは、様々な事情から三人の父親と二人の母親がおり、血の繋がらない親の水戸家↓田中家↓泉ヶ原家をリレーされ、現在は三人目の父親とともに暮らす主人公、十七歳の高校二年生 森宮優子。でも彼女はいつも愛されている。そんな彼女が成長していく様子が描かれている物語です。

この本は全国の書店員が今いちばん売りたい本を決める『本屋大賞2019』に選ばれました。作者は、たくさんさんの賞を受賞された瀬尾まいごさんです。



この物語を読み終えた時にあなたは、きつと心が温かくなると思います。この素敵な物語を是非読んでみて下さい！図書館にあります!!

二〇二〇年の春、いつもの日々が、突然、変わってしまいました。新型コロナウイルスの感染拡大によって様々なことが一変し、オリンピックとパラリンピックは開催延期に、学校は休校に、私の習い事であるバレエの教室もお休みになってしまいました。こうして、誰もが思ってもみなかった二〇二〇年が始まったのでした。

最初は、学校がお休みになり、うれしいと思ったこともありましたが、日がたつにつれてだんだんと、学校に行くことがどんなに楽しかったのかという事に気づき、それから学校に行きたくても行けない、というもどかしさがつのってききました。そして、中学一年生も中途半端なカタチで終わり、急な変化に気持ちがいっつきませんでした。



この自粛期間中、私は毎日時間を決めて勉強やランニング、そして習い事のバレエをしていました。また、本もよく読みました。本を読むと、現実から離れることができ、暗い気持ちも晴れます。読書をする事は、普通の時も自粛期間中でも私の中では変わらない大切な時間です。本の世界に入りこみ、登場人物と冒険することが出来ます。L・N・モンゴメリさんの『赤毛のアン』は、美しいプリンスエドワード島にやって来た、赤毛で、孤児のアンの成長を描いた物語です。アンは、想像力がとても豊かな女の子。この本を読んで、アンのような想像力があれば、暗く辛い時でも乗り越えられたいと思います。みなさんも、ぜひ、読んでみてください。

中二として臨んだ新学期、新しいクラスで不安も少しありましたが、オンラインでの授業が始まりました。初めての挑戦がたくさんありました。

授業は、担当の先生によってZoomかユーチューブでしたが、どの

たのかということに気づき、それから学校に行きたくても行けない、というもどかしさがつのってききました。そして、中学一年生も中途半端なカタチで終わり、急な変化に気持ちがいっつきませんでした。

この自粛期間中、私は毎日時間を決めて勉強やランニング、そして習い事のバレエをしていました。また、本もよく読みました。本を読むと、現実から離れることができ、暗い気持ちも晴れます。読書をする事は、普通の時も自粛期間中でも私の中では変わらない大切な時間です。本の世界に入りこみ、登場人物と冒険することが出来ます。L・N・モンゴメリさんの『赤毛のアン』は、美しいプリンスエドワード島にやって来た、赤毛で、孤児のアンの成長を描いた物語です。アンは、想像力がとても豊かな女の子。この本を読んで、アンのような想像力があれば、暗く辛い時でも乗り越えられたいと思います。みなさんも、ぜひ、読んでみてください。

先生もとてもわかりやすい授業をしてくださったので、困ることはありませんでした。友達と直接話すことはできませんでしたが、画面を通してつながっていると思うと、幸せな気持ちになりました。

六月からは一日置きに登校がスタートしました。学校に長時間いることはできませんでしたが、自分の教室でクラスメートと勉強することができて、とてもうれしかったです。

そうした日々も終わり、二学期からは全員が登校できるようになりました。学校で先生方やクラスメートと話していると、新型コロナウイルスのことなど忘れてしまいました。教科は、いつもより少ないですが、期末考査も実施されて、ほとんどぶだんの学校生活に戻れた、と思います。

二学期には、楽しい行事もありました。例年よりも、規模が縮小されましたが、体育大会も開かれ、クラスの団結力や絆を深めることができました。十月にはSDGsデザインスカパーウィークという学年行事も行いました。久しぶりの校外学習でしたが、事故などに巻き込まれることもなく無事に終えられました。

その他にも、ビデオバトルやフイリピンの学生とZoomでの文化交流など多くの行事ありました。コロ

ナ禍の中、私たち生徒を楽しませようと、とても楽しい行事を企画してくださった先生方に感謝しています。毎日、ニュースで発表されるその日の感染者数を見ると、「こんなに！」と驚かされます。私の知り合いの方にはコロナにかかってしまった人はいないので、とても不思議な気持ちになります。

この新型コロナウィルスがもたらす恐怖は、私たち日本人だけでなく世界中の人々が感じていると思います。きつといつの日か、この大流行も終息すると信じて、日常生活が戻ると信じて、私たちも感染が拡大しないように大切な友達や家族を守るために小さなことでもできることをしなければならぬと思います。

私は読書をすることで想像力を発揮して、何事にも前向きに取り組むことで、困難を乗り越えていきます。

※ベストリーダー賞

その年度で図書館の本を最も多く読んだ生徒に授与される賞



先輩便り

大学の現状と、
今の時代を楽しく生きる方法について

東京医科歯科大学歯学部歯学科

山中 結理
(2020年3月卒業)

【大学生活の現状】

ある日突然、生活が変わった。部屋の外からは英語で会話する人の声がない。会いたいと思ったときにいつでも友達（日本人ではない友達）と会い、昼は互いに言語を教えあい、夜はその友達の母国の伝統料理と一緒に楽しむ。しかもその友達は一人ではない。中国出身の人、ネパール出身の人、ガーナ、タイ、韓国……とにかく多くの友達がいる。

これが現在の私の生活です。かと言って留学しているわけでも、大学の対面授業が再開したわけでもありません。むしろ大学は二〇二〇年度の授業を可能な限りすべてオンラインで行うという結論を出し、対面実験授業もほとんど中止にしました。

もちろん、入学式、留学、その他多くの行事が中止で、一月現在、部活動もあまり参加できていません。

では、なぜ私はこのような生活をしているのでしょうか。答えは簡単です。今、私は国際学生宿舎という大学の寮に住んでいるからです。寮という同じ屋根の下で過ごしているので友達といつでも会うことができ、留学生が沢山いるので母国語を教えることもできます。

大学に行けないという状況は他大の大学生と同じです。だからといっ

てただ家でオンラインの授業を受けるのではなく、自分なりにワクワクして生活できる方法を探す、もっている環境を最大限活かそうとすることが大事だと思います。

映画で最後まで生き残る主人公を思い浮かべてみてください。次々と変化していく環境に対して文句や不満を言う周囲の人々は生き残ることができないですが、その環境の中で自分ができることを探し、力を最大限に発揮している主人公は生き残っていると思います。それはコロナ禍の今でも同じではないでしょうか。

私は国際学生宿舎に住むという解決策でこのコロナの時代を楽しく生きています。また、解決策はそれ一つだけではありません。ZOOMを使うことで、毎日行われる教授の研究発表会に気軽に参加したり、海外の大学生とオンラインで話し合えるイベントに何度も参加したりすることができ、毎日が忙しいです。このようにコロナ禍だからこそできることは、実はたくさんあります。

つまり、物事の捉え方を少し変えるだけで、今ある環境を自分にとって最高の環境に変えることができるのです。もちろんそれは難しいことかもしれませんが、コロナを収束させようとした環境そのものを変えようとしたりすることよりもずっと

簡単なことだと思います。自分が変わってしまえばいいのですから。

【考えの考え方】

ここまで大学の現状を紹介してきましたが、どのようにこうした考え方を持てばいいのか、疑問を持つと思います。そこで次に、私が考え方の基本としている「ED ED」(注1)のシヨーン・エイカーさんの考え方を紹介しようと思います。彼は幸福と成功の関係について、自分の考え方をどのように変えればいいのか以下のように話しています。

「ほとんどの企業や学校で考えられている成功の法則は『一生懸命がんばれば成功できる、成功すれば幸せになれる』というものだということです。(省略) この考えは科学的に間違っており、逆だということです。第一に成功するたびに脳がするのは成功の定義を再設定するということです。いい成績を取ればもっと良い成績を取る。良い学校に入ったらさらに良い学校に入る。良い仕事に就いたらさらに良い仕事に就く。販売目標を達成したら目標をさらに上げる。幸せが成功の向こう側にあるのなら脳はいつまでもたどり着けません。(省略) でも私たちの脳はそれとは逆の順に動くのです。」(中略)

現状に対してポジティブになることさえできれば脳はより熱心に速く知的に働きその結果としてより成功するようになるのです。」(注2)

つまり成功すれば幸せになるというわけではなく、幸せになれば(現実に対してポジティブになれば)成功する可能性が高くなるということです。実際、私も鬱のようになっていた受験期、担任の先生がポジティブに現状を捉えて応援してくれたおかげでなんとか乗り切ることができました。これは受験のときでもコロナ禍のときでも役に立つスキルだと思っています。ちなみに私の大学の教授はこう言っています。

「健康な状態を百とすると、病気になってしまった場合、治療によって百まで戻すのは難しいです。三十まで治療で治せるかもしれませんが、あとの七十は患者さん自身がその三十の状態に慣れる事で埋め合わせるしかないのです。」

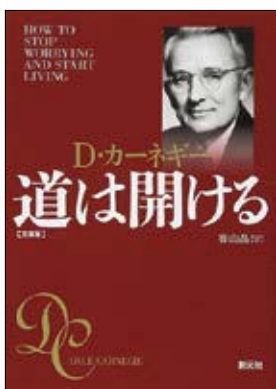
コロナが蔓延し、元の世界には戻れないと多くの方が嘆いています。しかし、最新の医療でも病気になってしまった患者さんを元の状態、百にするのは難しいのです。それならばコロナウイルスが蔓延し、百でなくなった世界に生きる私たちは、自分の考えを変え、現状をポジティブに捉え、変わってしまった世界に私

たちが合わせればいいだけなのです。元の生活に戻れないと落胆し過ぎる必要はないのではないでしょうか。

【おすすめる本】

関連するおすすめるの本を二冊紹介したいと思います。

一冊目は『道は開ける』(注3)という本です。この本は不安をどのように解決すればいいのか、様々な人の対処法を説明しながら、幸せに生きる方法を教えてくれる本です。どんなに小さなものでも、不安は緊張を張り詰めさせ、性格を変え、健康にまで影響を及ぼしてしまう脅威となります。そんな不安をD・カーネギー氏は「小さなことにこだわっている間に、人生は終わってしまう」などといった多くの名言と共に読者を勇気づけ、支えてくれます。私は普段本には何も書き込まないのですが、この本は心を動かされる言葉が多く、書き込みと付箋だらけになってしまいました。

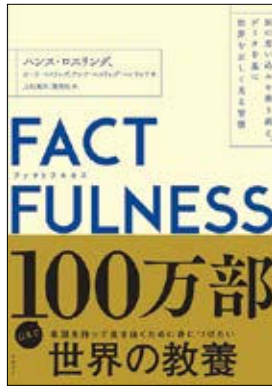


二冊目は『FACT FULNESS』(注4)という本です。この本は私たちの固定概念を変え、グローバルな視点を与えてくれる本です。例えば、皆さんは世界がどのように変化しているか、世界がどのようになっているか。大半の方は世界がどんどん悪くなっているか、世界が少しずつ良くなっているか、世界は少しずつ良くなっています。極度の貧困にある人の割合は過去二十年で約半分になったし、世界の平均寿命は七十二歳にもなりました。私達は世界を発展途上国と先進国の二つに分けてしまいがちですが、今一番人口が多いのはそのどちらでもなく、発展途上国と先進国の中間の国です。しかし、このような明るい情報はニュースになりにくく、私たちは世界中で起きている小さな進歩を見逃してしまいがちです。この本はそんな情報を私たちに与え、データから正しく世界を見る方法を教えてください。

最近では暗いニュースが多いですが、明るく正しい情報を与えてくれるこの本は、グローバルな世界を生きていく皆さんにとつてかけがえのない本になると思います。また、これはコロナ禍の今でも応用することができます。

皆さんはついに、メディアが毎日のように伝えているコロナウイルスの

情報を鵜呑みにしてしまっているのではないだろうか。先ほども書いた通り、メディアはネガティブな情報を伝えたり、少し強調して伝えてしまったりする可能性があります。しかし、そのほんのちよつとの強調が誤解を招いてしまうことがあるのを忘れないうでください。メディアが伝える情報を無視し、楽観主義者になれと言っているのではありません。自分が得た情報の信憑性を疑い、自ら正しい情報なのか調べ、クリティカルシンキングの力を養ってほしいと思います。



【学びの大切さ】

最後に、大学進学はゴールではありません。望む進路に進めるときも、進めなかったときも、今まで学んできたことを生かして、自分が進んだ進路をどのように「自分の正解」にできるかが『正解のない時代』を幸せに生き抜く秘訣になってきます。そのうえで大切なのは、学校、本、

新聞などを通して得られる多くの学びです。私がお好きなTED talks(注1)のメグ・ジュエイさんはそのことについてこう言っています。

「二十代の人たちはロサンゼルス国際空港から西のどこかに向けて今まさに飛び立とうとする飛行機のようなものです。離陸直後にちよつと経路を変更するだけで着陸地点がアラスカになったりフィジーになったりします。(中略)一回の素晴らしい会話や一度の転機や一回のTEDトークが何年にもまたは何世代にも渡って絶大な影響を与えることができるのです。」(注5)

皆さんは二十代ではなく十代ですが、高校三年生には進路を決めるということを考慮すると、上記のことは十分当てはまることだと思えます。つまり、皆さんにとつては一つの授業が、一冊の本が、一つの経験が将来を大きく変える可能性があるのです。

私もそうでした。中学三年生の時、夏休みの理科の自由研究で自分の歯科矯正治療について作成したのですが、図書館で歯科矯正治療に関する本を読んだり、自由研究を書いたりしているうちに歯科の面白さや問題点に気づき、歯科の道に進むことにしました。もしあの時理科の自由研究がなかったら、歯科に関する本を

読んでいなかったら、私は違う道に進んでいたかもしれません。

今、歯学の勉強がとても楽しく毎日が充実している私にとつて、高校で経験したことはかけがえのない人生の糧になっています。今回書かせていただいたこの文章も、今まで読んできたもの、聞いてきたものの積み重ねによって成り立っています。そのため引用が多くなっています。そのため、皆さんにも今回私が紹介した本、参考文献、図書館にある本や新聞を読んでみてほしいです。きっと皆さんに新しい視点を与えてくれると思います。

【ネクスト・チャレンジ】

私は今、歯科医師を目指していますが、だからといって歯科の勉強ばかりしていると自分の視野がどんどん狭くなり、目の前にある問題に対して歯科の知識でしか解決できなくなる恐れがあります。そのため、今は歯学の勉強にとらわれず、様々な分野の勉強にチャレンジしていきます。たとえば、大学の講義では「Introduction to Political Economy」という、世界の経済について英語で議論する講義を受講したり、「Understanding Globalization」という、グローバル化について英語で学び、議論する講義を受講したり

しました。これらは歯学とは直接的な関係があまりないですが、今の経済に対して自分の意見を言うことは新鮮だったし、寮にいる留學生の友達に意見を聞いたりすると意外な意見を聞けたりして非常に面白かったです。

また、経済は医療と密接に繋がっていることを学びました。私の大学は学部に関係なく一年生がみな教養部なので、医療の知識以外の教養や知識をたくさん学ぶことができたが、二年生になり、専門科目の授業が多くなっても様々な領域の学問に触れ、自分の視野をどんどん広げていこうと思っています。

【引用、参考文献】

注1 「TED talks」

<https://www.ted.com/talks?language=ja>

注2 Shawn Achor "The happy secret to better work" (TED talks, 110110年二月二日)

https://www.ted.com/talks/shawn_achor_the_happy_secret_to_better_work_reading_list?utm_campaign=social&utm_medium=referral&utm_source=facebook.com&utm_content=talk&utm_term=business (110110年十二月二十二日閲覧)

注3 D・カーネギー『道は開ける』（創元社）2016/01/22 ISBN978-4-422-10099-9)

注4 ハンス・ロスリング、オーラ・ロスリング、アンナ・ロスリング・ロンラン

ド「FACTFULNESS（ファクトフルネス）10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣（日本語）」（日経B P、二〇一九年一月十一日、ISBN:13,978-482228607）

注5 Meg Jay "Why 30 is not the new 20" (TED talks, 110113年五月十三日) https://www.ted.com/talks/meg_jay_why_30_is_not_the_new_20 (110110年十二月二十二日閲覧)

『体験教育』の歴史

『体験教育』は、明星中学校の広報誌として、昭和四年一月一日に第一号が刊行されました。ところが、昭和十八年十月、太平洋戦争の激化によって第七十七号をもって刊行が停止されました。その後、復刊第一号（通巻第七十八号）が発行されたのは、昭和三十一年五月二十日の創立記念日のことでした。

『体験教育』刊行の目的は、「明星



『体験教育』復刊第一号

中学校のバックボーンをなす『知行合一』『実践躬行』の精神を具現化するため」（『児玉九十自伝』P 340）で、「本校の教育方針および日々の学校生活について家庭の方々には十分理解していただいて、教育を一層徹底させたい、また本校教育に関する一般の批判示教も仰ぎたい」（同著P 211）との遠慮もあったようです。

これに拠れば、当時の『体験教育』は、けっして一方通行のものではなかったことがわかります。明星教育の原点はヒューマンタッチ（人格接触）による「体験教育」であり、これは「口先だけの教壇教育にくらべて、一段と苦勞が多い」（同著P 215）ともあります。

発行は月一回（現在は年三回）、昭和二十五年に高校が、二十四年に幼稚園が、二十五年には小学校が開かれ、『体験教育』は、学齢に応じた教育の在り方、教育活動の実践などを掲載し、生徒・保護者、卒業生、さらには一般購読者に配付・郵送していました。定価は、一年で百円と表紙に記してあります。

明星教育の根幹を為す「知行合一」（ちこうごういつ）とは、王陽明が唱えた陽明学の中心思想で、「知ること」と「行うこと」は一致しなければならぬ、という意味です。この思想は、日本にも江戸時代に紹介

され、中江藤樹、大塩平八郎、吉田松陰、西郷隆盛などが傾倒し、これを実践しました。

昨年、高二の古文の授業で「娘捨山」を教えたとき、山に捨てられたお婆さんがかわいそう、私が引き取ってご飯をいっぱい食べさせてあげます、と感想を述べた生徒がいました。こういうとっさの心の働きが元となって行動に移されたとき、初めて「知行合一」は完成するのです。また逆に「知りて行はざるは、只だ是れ未だ知らざるなり」と、王陽明の言動を集めた『伝習録』にあるように、まさに「知は是れ行の始にして、行は是れ知の成（完成）」と言えるでしょう。

『体験教育』は二〇一九年度より紙ベースでの発行からWeb化へと移行し、現在では、学校のHP上からも閲覧することが出来ます。

特別寄稿
 歴公民科教諭 八幡 幸司

『体験教育』は昭和四年の発行以来、本校の草創期からの教育方針の実践、教育活動の内容、生徒・児童の様子をいきいきと伝えてきました。また、その内容は、学苑の教育活動の内容に留まらず、当時の学苑



図書館で保管している復刊された『体験教育』の冊子

を取り巻く環境や多摩地区の歴史、さらには当時の世相を伝える貴重な歴史的価値ある資料として、脈々と明星学苑の精神を受け継いで発行されています。

この『体験教育』の収集・保管作業に挑まれたのが高林光雄先生（平成二十六年度ご退職）です。先生の長年のご尽力により、戦前の発見号・戦後の復刊以降（昭和三十一年第百七十八号）全号の収集と総目次が完成しました。その際、『体験教育』を永く後世に伝えようと、製本と電子データ化が行われ、現在、職員室で保管されています。

ところが、戦争の混乱期に、複数の号の『体験教育』が紛失しており、高林先生の後を継いだ私が、その調



会長賞「空即是色」

3年1組 小澤広隆君

査と保存に向けて取り組んできました。その結果、現在、戦前号第百七十七号のうち、第百六十一号が発見され、残りの十六号分を搜索している状況です。

今後は、同窓生の皆様に、在学当時の学苑の様子を『体験教育』を通して振り返っていただけるような検索・閲覧可能なアーカイブシステムを検討しています。



朝日新聞社賞「赤ちゃん」

3年4組 小川結衣さん